

農林水産商工常任委員会提出資料

(平成23年6月21日)

項 目	ページ
1 県内産すいか・メロン等のロシア輸出について 【農政課】	1
2 主要農産物の生産販売状況について 【生産振興課】	2
3 鳥取県「イノシシ・シカ」解体処理衛生管理ガイドライ ンの概要について 【生産振興課】	3
4 第44回全農乾椎茸品評会の結果について 【森林・林業総室】	4
5 第31回全国豊かな海づくり大会の準備状況について 【全国豊かな海づくり大会推進課】	5
6 第1回境港まぐろ感謝祭について 【境港水産事務所】	7
7 緊急雇用創出事業の予備枠による事業の追加実施につい て 【八頭農林局】	9

農 林 水 産 部

県内産すいか・メロン等のロシア輸出について

平成23年6月21日
農 政 課

J A全農とつとりは、今年度第1弾の環日本海貨客船を利用したロシアへの農産物輸出として、すいか・メロン等の輸出を行うとともに、ロシア・ウラジオストクに販売促進団（県内農業団体と県農林水産部が連携）を派遣し、県産農産物等のPR活動を行います。

1 すいか・メロン等輸出の概要

(1) 出荷者 全国農業協同組合連合会鳥取県本部

(2) 出荷量 鳥取県産すいか 200ケース（J A鳥取中央 8kg箱（1玉入り））
// プリンスメロン10ケース（J A鳥取中央 4kg箱（7個入り））
// タカミメロン 50ケース（J A鳥取西部 5kg箱（5個入り））

※J Aアグリ島根との連携による島根県産デラウェア（40kg）も混載

(3) 主な日程（予定）

6月23日（木） 産地出荷（選果、箱詰め等）

6月24日（金） 国内の通関手続き等（境港）

6月25日（土） 境港出港

※すいか・メロンのロシア輸出出発式（境港国際旅客ターミナルにて）
（環日本海貨客船航路就航2周年記念事業の式典の中で行う）

～27日（月） ウラジオストク港入港（ロシア側の通関手続き等）

7月 2日（土） 店舗販売開始（ウラジオストク市内のスーパーマーケット）

2 ロシア農産物輸出版売促進団の概要（予定）

(1) 日 時 7月3日（日）～7月7日（木）

(2) 派遣先 ロシア・ウラジオストク

(3) 団構成 県農業団体3名（J A全農とつとり：小谷副本部長、J A鳥取中央：福山組合長、J A鳥取西部：大塚常務）
県農林水産部3名（鹿田農林水産部長、農政課職員2名）

(4) 活動内容

○サポートセンターでの試食・展示会

・日 時：7月5日（火）13：00～17：00

7月6日（水）10：00～12：00

・場 所：鳥取県ウラジオストクビジネスサポートセンター

（ウラジオストク駅近くのウラジオストク港海洋ターミナル内）

・対 象：行政府等関係機関、現地マスコミ及び現地バイヤー

・実施内容：①PRセレモニーを開催（鳥取県・鳥取県産農産物等の紹介、セレモニー出席者全員によるすいかの実食、マスコミ取材等）

②すいか、メロン、らっきょう漬、西瓜とまり漬、ねばりっこチップスの試食・展示

③県農産物PRポスター、旬カレンダーパネル、チラシ等の展示

④現地バイヤーとの商談等

※一般市民に対しても、広くすいか等の試食を提供しPR

○ウラジオストク市内スーパーでの試食・販売会

・日 時：7月6日（水）14：00～17：00

・場 所：ウラジオストク市内スーパー2店舗

・実施内容：①売り場でのすいか、メロンの試食

②鳥取県産農産物等の紹介

主要農産物の生産販売状況について

平成23年6月21日
生産振興課

1. らっきょう

- (1) 栽培面積：207ha（前年213ha、前年対比97%）
鳥取いなば117ha、鳥取中央87ha、鳥取西部3ha
- (2) 生育状況：年末からの大雪の影響で生育は約1週間遅れ。分球は少なく大玉傾向で、最終出荷量は平年の約9割と予想される。
- (3) 出荷時期：初出荷は5月27日（前年5月21日）と昨年より6日遅れ。
販売量は計画で2,625t（前年実績2,786t、前年対比94%）
- (4) 販売状況 市場からの引き合いが強く、数量も多く、単価は高く推移している。

区分	6月11日までの販売実績(販売回数累計)		
	数量(t)	単価(円/kg)	販売金額(千円)
23年度	1,517	585	886,781
22年度	1,190	496	590,697
前年対比	127%	118%	150%

注) 販売10回目の累計（平成22年産は6月4日まで）
（全農とっとり販売速報）

2. すいか

- (1) 栽培面積：301ha（前年301ha、前年対比100%）
品種の構成は、筑波の香（43%）、祭りばやし777（33%）、春のだんらん（21%）など。
- (2) 生育状況：ハウス栽培の定植は平年並に開始されたが、トンネルは年末からの大雪の影響で約1週間遅れ。交配は昨年と同様平年より7日程度遅れて始まったが概ね順調。
- (3) 出荷時期：初出荷 北栄町 6月6日（前年6月10日）
倉吉市 6月9日（前年6月9日）
販売量は計画で15,719t（前年実績15,321t、前年対比103%）
- (4) 販売状況 6月11日に主要産地の本格的な販売が始まった。

区分	6月11日までの販売実績(累計)		
	数量(t)	単価(円/kg)	販売金額(千円)
23年度	110	228	25,087
22年度	65	236	15,241
前年対比	170%	97%	165%

（全農とっとり販売速報）

3. 白ねぎ

- (1) 栽培面積：春ねぎ68ha（前年68ha、前年対比100%）
夏ねぎ、秋冬ねぎは集計中（前年夏ねぎ104ha、秋冬ねぎ231ha）
- (2) 生育状況：年末からの大雪の影響により、葉折れ等の被害を受け、春ねぎは昨年より15日遅い出荷となった。夏ねぎはほぼ昨年どおり出荷が始まった。
- (3) 出荷時期：春ねぎの初出荷は3月16日（前年3月1日）
夏ねぎの初出荷は6月7日（前年6月6日）
- (4) 販売状況：4月は秋冬どりの残りの出荷があり、数量は昨年より多かった。

区分	4～5月末までの販売実績(累計)		
	数量(t)	単価(円/kg)	販売金額(千円)
23年度	1,536	323	495,961
22年度	1,328	403	535,526
前年対比	116%	80%	93%

（全農とっとり販売速報）

4. 初夏どりブロッコリー

- (1) 栽培面積：149ha（前年148ha、前年対比101%）
- (2) 生育状況：年末からの大雪の影響により収穫と定植作業が遅れた。
- (3) 出荷時期：5月1日
- (4) 販売状況：3月までに収穫予定の秋冬どりが4月まで出荷された。

区分	4～5月末までの販売実績(累計)		
	数量(t)	単価(円/kg)	販売金額(千円)
23年度	534	350	186,775
22年度	272	431	117,336
前年対比	196%	81%	159%

（全農とっとり販売速報）

鳥取県「イノシシ・シカ」解体処理衛生管理ガイドラインの概要について

平成23年6月21日

生産振興課

くらしの安心推進課

1 ガイドライン作成の目的

野生動物(イノシシおよびシカ)の肉を販売するためには、食品衛生法施行条例に基づき許可を取得した食肉処理施設で衛生的に処理するとともに、狩猟者や処理業者が捕獲した野生動物を食用として扱えるかどうか正確に判断する必要があります。

そこで、野生動物の地域資源としての活用促進と、消費者に安全・安心な肉を供給することを目的に、鳥取県「イノシシ・シカ」解体処理衛生管理ガイドライン(別紙)を作成しました。

2 ガイドラインの内容

【ガイドライン】

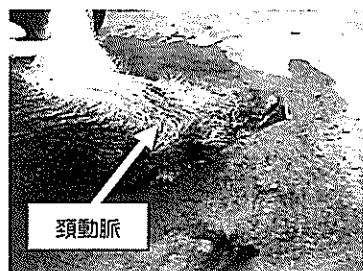
- 第1章 ガイドラインの目的……………安全な獣肉提供、生食用は対象外
- 第2章 対象とする野生動物……………イノシシ、ニホンジカ
- 第3章 用語の定義……………止めさし、放血、と体等の用語説明
- 第4章 狩猟者等が遵守すべき事項……………止めさし、運搬方法、外見異常の確認等
- 第5章 飼育者が遵守すべき事項……………動物用医薬品等の適正使用
- 第6章 処理施設の構造基準……………温湯設備、吊り下げ施設の設置
- 第7章 処理業者の講ずべき衛生的措置基準……………解体時の確認項目
- 第8章 食肉の製品検査……………製品検査の方法
- 第9章 出荷・販売に係る措置……………生食禁止、出荷記録保存

【参考資料】

(1)衛生的な解体処理方法(具体例)……………解体の流れとポイントを写真付きで説明

(2)人獣共通感染症……………E型肝炎ウイルス等注意すべき感染症を紹介

<衛生的な解体処理方法における説明写真の例>



<写真2> 放血は、頸部にある頸動



<写真13> 腹腔内を水で洗い流す



<写真20> 第5,6肋骨の間で枝肉を前後に分割

3 ガイドラインの活用方法

以下の方法で公表・周知し、普及・指導の資料として活用する。

○県ホームページでの公開

○各総合事務所の被害相談窓口、改良普及員、市町村・農協等の担当職員、猟友会員等に配布し、衛生的な獣肉利用の技術普及を行う。

○研修会でのテキストとして利用する。

第44回全農乾椎茸品評会の結果について

平成23年6月21日
森林・林業総室

6月10日に埼玉県久喜市で開催された第44回全農乾椎茸品評会において、団体表彰の部で団体優勝、個人表彰の部で農林水産大臣賞を含め10点が入賞し、優秀な成績を収めました。全国に本県の高い生産技術力と乾椎茸の品質の良さが証明されました。

1 受賞結果

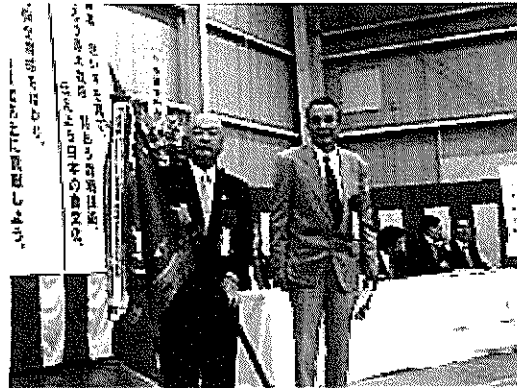
(1) 団体表彰

団体優勝：全農鳥取県本部（準優勝：全農岩手県本部）

(2) 個人表彰 10点入賞

賞名	規格	受賞者名	市町村名
農林水産大臣賞	花どんこ	米田 一成	倉吉市関金町
全農会長賞	こうしん中葉厚肉	森 栄伸	鳥取市
全農会長賞	こうしん中葉厚肉	植田 朋己	南部町
全農会長賞	こうしん中葉中肉	上谷 春	日野町
全農会長賞	花どんこ	福井 聡	倉吉市
全農会長賞	上どんこ	中西 元勇	鳥取市河原町
財団法人日本きのこセンター理事長賞	こうしん大葉厚肉	坂田 忠徳	鳥取市
財団法人日本きのこセンター理事長賞	こうしん中葉厚肉	植田 善雄	鳥取市青谷町
財団法人日本きのこセンター理事長賞	上どんこ	影山 千世子	伯耆町
財団法人日本きのこセンター理事長賞	上どんこ	藤原 良一	南部町

2 表彰式の状況



3 品評会の概要

- (1) 開催日時：表彰式 6月10日(金)
- (2) 開催場所：全農乾椎茸事業所(埼玉県久喜市樋ノ口大野50-1)
- (3) 主催：全国農業協同組合連合会
- (4) 出品数：410点(うち鳥取県40点)
- (5) 入賞数：48点(うち鳥取県10点)

4 その他

- ・団体優勝は、第40回全農乾椎茸品評会(平成19年度)で受賞して以来2度目となった。(第43回品評会：準優勝)
- ・本県の品柄は、全体的に小型で重い良品で、生産量は昨年より増加した。(全国的に品柄、生産量とも例年並み)

第31回全国豊かな海づくり大会の準備状況について

平成23年6月21日
全国豊かな海づくり大会推進課

1 実施計画について（別添）

実施計画は、3月15日（火）に開催した第4回全国豊かな海づくり大会鳥取県実行委員会で承認されました。

この実施計画を5月26日（木）に、豊かな海づくり大会推進委員会幹事会に説明し、了解を得ました。

※大会の概要

例年、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、水産業の振興と発展、環境の保全などを主な目的とし、開催される大会です。

特に、本県では、「白うさぎ大使による新たな国造り運動」として、大会に向けて、放流や海岸・河川の清掃、植林・育林活動に取り組んできました。

その白うさぎ大使や漁業後継者などが全国に向けてメッセージを発信します。

- | | | |
|----------|---|---|
| (1) 大会名称 | 第31回全国豊かな海づくり大会 | |
| (2) 主 催 | 豊かな海づくり大会推進委員会
第31回全国豊かな海づくり大会鳥取県実行委員会 | |
| (3) 後 援 | 農林水産省、環境省（予定） | |
| (4) 開催期日 | 10月29日（土）・30日（日） | |
| (5) 開催場所 | 鳥取市 | |
| (6) 参加者数 | 約50,000人 | |
| (7) 会 場 | 式典会場
海上歓迎・放流行事
ふれあい交流行事 | とりぎん文化会館
鳥取港西浜地区
コココーラウエストスポーツパーク |

大会テーマ つくろうよ みんなが 笑顔になれる海

～ がんばろう日本 災害からの復興 ～

大会キャラクター ととリン



2 大会公式ポスターについて

公募したところ、県内のデザイン会社8社から18点が寄せられ、県の実行委員会の審査会で3点を選考し、豊かな海づくり推進委員会幹事会に諮り、最終的に決定されたものです。



3 大会へ向けた今後の主なスケジュールについて

- 7月16日 カウントダウンイベント（大会100日前前後）
 - ・残日計の設置
 - ・海岸一斉清掃
 - ・大会開催記念切手の発行 など

- 8月上旬 宮内庁実地調査

- 9月中旬 1か月前リハーサル

- 10月上旬 実施本部会議
中旬 第5回実行委員会

- 29日 レセプション（災害復興のつどい）
ふれあい交流行事
（大会前日リハーサル）

- 30日 大会（式典行事、海上歓迎・放流行事）
ふれあい交流行事

第1回境港まぐる感謝祭について

平成23年6月21日

境港水産事務所

境港産クロマグロのPR及び資源管理の取組などの情報を広く発信しようと、境港天然本マグロPR推進協議会（会長：大谷和三 境港魚市場（株）社長）主催による「第1回境港まぐる感謝祭」が開催される。

1 感謝祭の概要

秋の「水産まつり」を本祭とし、冬の「かに感謝祭」と今回立ち上げる夏の「まぐる感謝祭」を境港の水産三大祭と位置づけ、境港を代表する水産物の知名度向上と消費拡大を図る。

- ・ 日 時 平成23年7月3日（日）午前10時～午後2時
- ・ 場 所 県営境港水産物地方卸売市場内（境港市昭和町9-7）
- ・ 内 容 マグロ解体ショー、内臓料理の試食、マグロPR展示、販売コーナー、無料コーナー
- ・ 主 催 境港天然本マグロPR推進協議会
- ・ 協 賛 （社）境港水産振興協会、山陰旋網漁業協同組合、水産物市場荷受協議会、境港鮮魚仲買協同組合、（協）境港水産物直売センター、境港商工会議所、境港商工会議所女性会、境港市観光協会、境港飲食店組合、境港金融会、鳥取県、境港市

2 境港天然本マグロPR推進協議会の取組

資源管理の推進と境港天然本マグロPR活動を車の両輪と捉え「天然・生・日本海」をテーマに、県内外で試食会の開催や各種イベントに参画するなど精力的な取組により、境港産クロマグロの知名度向上と消費拡大に努めている。

<22年度>

- ・ 平成22年3月1日に本協議会が発足
- ・ 一般公募によるロゴマークの選定、商標登録（平成23年2月18日）
- ・ ポスター、のぼり、ステッカー等のPRグッズ作成及び配布
- ・ PRグッズのお披露目会（5月31日）、平井知事参加によるPR試食会（7月6日）の開催
- ・ クロマグロ資源管理に関する水産庁との意見交換会（8月19日）

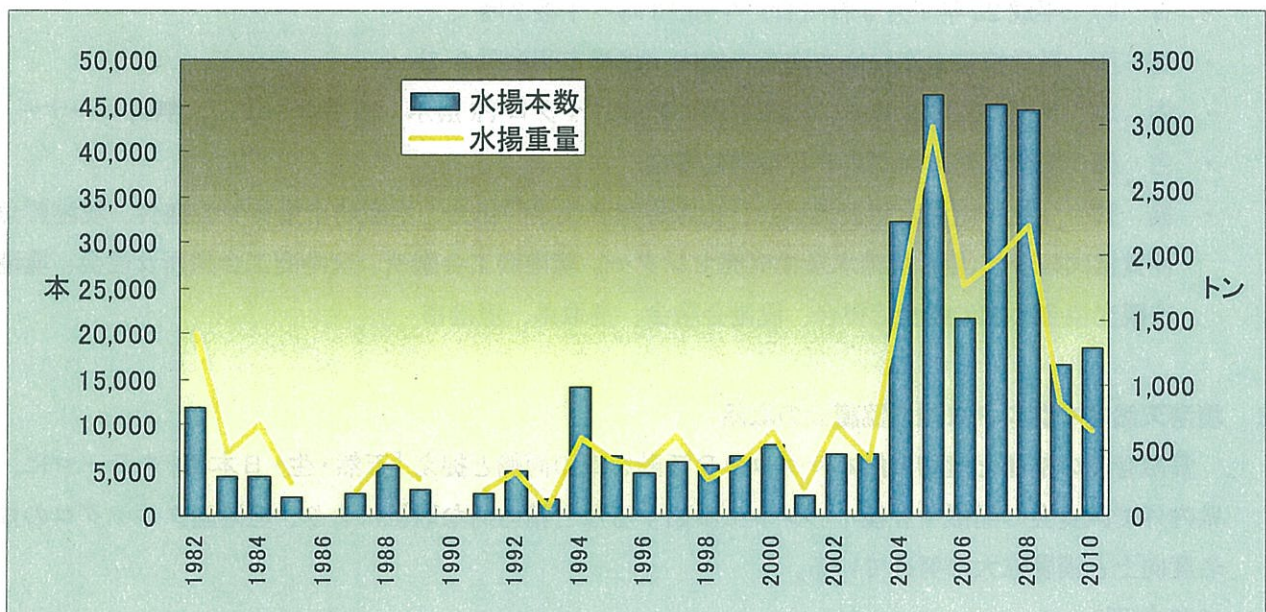
<23年度>

- ・ 境港天然本マグロのブランド基準づくり等に関する大都魚類（株）との意見交換会（4月28日）
- ・ 第1回境港まぐる感謝祭の開催（7月3日）
- ・ 米子市・松江市での解体試食会の開催
- ・ 食の業界及び消費者との意見交換会の開催

【参考資料】

1 今期のクロマグロ水揚状況

- ・ 初水揚は5月29日で、昨年より3日早く、平成10年の5月27日に次いで過去2番目に早い。
- ・ 水揚量769トン、水揚金額約8億1,600万円（6月10日現在）で、すでに前年の総水揚量654トンを上回る順調な滑り出し。
- ・ 漁場は北部～中部日本海を中心に形成され、漁獲サイズは5～86kg（平均31kg）と小型魚中心。
- ・ 日平均単価（円/kg）は当初1,400円台でスタート、水揚量の増加にともない一時700円台まで値を下げたが、再び回復基調に変わり6月10日には1,500円台に回復した。



2 大中型まき網漁業者による漁獲自主規制の開始

水産庁とまき網漁業者が太平洋クロマグロの具体的な管理方策を検討した結果、今年4月から大中型まき網漁業による九州西・日本海海域の漁獲自主規制を開始した。

<管理措置の概要>

- ① 未成魚（鰹・内臓抜き 24kg 未満）…九州西・日本海において2年間（H23～24）の漁獲量を合計9,000トン未満に制限
- ② 成魚（鰹・内臓抜き 24kg 以上）…日本海における2年間（H23～24）の漁獲量を合計4,000トン未満に制限（※成魚は国際管理委員会の取り決めにない日本独自の取組）

緊急雇用創出事業の予備枠による事業の追加実施について

平成23年6月21日
農 林 水 産 部
(八 頭 農 林 局)

1 県事業予備枠を活用して追加実施することとした事業費

(6月7日までに追加実施を決定した事業) 1,832千円

2 追加実施事業の内訳

緊急雇用創出事業

(単位：千円)

事業名	H23年度における雇用創出人数	H23年度執行予定額	事業概要
農業振興事務補助事業 (八頭農林局農業振興課)	2名	1,832	補助申請書類のデータベース化、鳥獣被害状況等のデータベース化及びそれに伴う現地確認等を行うため非常勤職員を配置する。

※この事業は「緊急雇用創出事業臨時特例基金」を活用して実施する事業です。